

「子育て理解講座」でお母さんになってみた



町では、思春期の青少年が、子どもの誕生から幼児までの成長過程に触れる体験を通して生命や親子関係の大切さを理解し、心の育成を図る機会とするため、中学3年生を対象とした体験学習「中学生の子育て理解講座」を毎年行っています。

今年も、金ヶ瀬中学校で6月30日、大河原中学校では7月8日・9日に行われました。当日行われた体験のようすと、終了後に書かれたアンケートの内容をご紹介します。

①「お母さんになる」ってどんなことだろう

まず、町保健師から、妊娠の経過により、母親の身体にどのような変化があるのか講話を受けました。また、胎児や新生児の特徴を学びました。保健体育の授業で勉強している内容もあり、冷やかしかう男子生徒、恥ずかしそうに下を向いたままの女子生徒など反応はさまざまのようでした。

〈アンケートより〉

○胎児が2〜3か月のなかで意外と大きくなるんだなということに驚きました。

○役場の保健師さんが、「みんなも大切に育ててもらったんだよー」と言っていたことが印象に残りました。

○赤ちゃんを育てるのがすごく大変だということがわかりました。

○赤ちゃんを育てるのがすごく分かりやすく丁寧に説明してくれたので、理解しながら体験できました。

②妊婦体験してみよう

『妊婦シミュレーター（写真右、約9ヶ月のおもりがついた妊婦体験用ベスト）を着用し、足元が見えにくいことや身体の重心の違い、足腰に新たに掛かる負担を体験しました。

生徒たちは、座る・立ち上がる・しゃがんで物を拾うなど、普段何でもないようなことが難しくなることを実感して、改めて妊婦の大変さを理解しました。



〈アンケートより〉

○おなか大きい状態を拾ったり、寝たりしたことが、とても難しかったです。

○妊娠したら、あんなに体が重くなって身動きが取りにくくなるのに家事をこなしているのを知ってすごいと思った。

○赤ちゃんがおなかにいるときに寝たり、落ちた物を取ったりするときに苦しくて大変だなと思いました。

○シミュレーターを着て寝た時に腹が圧迫されて大変でした。



抱っこしたりしたことがないそうで、人形とはいえおっかなびっくりでした。

〈アンケートより〉

○おむつ替えは今人形でしたが、本物は足とかバタバタしてるから大変そうと思いました。

○実際の赤ちゃんとはほぼ同じ重さや大きさの人形で体験できたことは貴重な体験でした。



③赤ちゃんの世話、上手にできるかな

沐浴人形（新生児相当・重さ約3キ）を使って、赤ちゃんのおむつ交換や抱っこ体験をしました。

多くの生徒は、本物の赤ちゃんのおむつを換えたり

体験学習を終えて

1クラスにつき1時間の短い体験教室でしたが、生徒たちは、これまでの周囲の支えのありがたさも実感したようでした。アンケートの最後の項目は「家族や支えてくれた人への思いを書こう」。生徒たちはどんな思いをつづったのでしょうか。

○未熟児で生まれてきた私をここまで育ててくれてありがとうございます。ここまで育つまで、いろいろと大変だったと思います。当時の私は、とにかくやんちゃで、熱を出したり、玄関から落ちたりして、けがや病気が多かったと思います。いつか必ず親孝行しますので、それまで待っていてください。

○お母さんだけでなくお父さんも子育て大変だったと思います。二人にはとても感謝しています。

○妊娠中にもいろいろな家事をこなして産まれた後にも、苦勞のなかここまで育ててくれて感謝です。

○もし子どもが生まれたらしっかり面倒を見たいと思った。

○一日に何十回もおむつを交換するのは疲れたと思う。妊娠中の家事も大変だったと思う。今、この大変さが知れて良かった。

○こんなに大変な思いをして育ててくれて、とてもうれしいです。今日、学んだこと思った以上に苦勞して育ててくれたんだなあと改めて思いました。

○自分が赤ちゃんだったころは自分の家族もこういう大変な思いをして育ててくれたのでありがたいと思いました。